

## 第五部 高度成長時代の流れの中で (二)

### 第一章 波瀾を内蔵した好況

#### 一 一般概況

昭和三十六年から昭和四十年の五カ年は、国際外交の上では、大局的に云ってますますの状態であった。中国の国際社会への進出は益々顕著に、承認国も大層ふえた。西側主要国との貿易も激増した。東南アジアは安定していいないが、全世界的に見れば国際政治的には引きつづいて平和共存ムードの中にあった。

このような平和ムードの中においても、米・ソ・英・仏・中国の核開発の競争は烈しく、宇宙旅行の研究も盛んになっていった。一九六一年にはソ連は宇宙船ヴォストーク一号(ガガーリン搭乗)が地球一周飛行に成功、翌年には米国が初めて人間衛星フレンドシップ七号の打上げに成功、またテルスター一号が欧米間のテレビ宇宙中継に成

功した。そして昭和四十年三月には、ソ連宇宙船ヴォストーク二号のレオノフ飛行士が初の宇宙遊泳に成功し、七月には前年六月に打上げられた米国のマリナ四号が火星に接近し、写真を電送した。この年十二月に、アメリカの二人乗り宇宙船ジェミニ七・八号が太平洋上において、初のランデブー飛行に成功した。まさに科学技術の世界では宇宙時代に入ったといえる。

そういう状態の中で、日本経済が世界の進歩に伴うためには、この五年間には、一上一下といろいろの苦難を経なければならなかった。わが国の経済は貿易赤字でありながら、所得倍増の声に刺戟されてか、消費需要のみ異常な活況を呈し、政府の昭和三十六年七月における公定歩合引上げも過熱した景気を押える決定的政策とはなり得なかった。しかし同年後期から、その影響が出はじめ、景気後退の徴を示し、百貨店、小売店などでは売行き鈍化の姿を呈した。昭和三十七年上半年に入ってもこの景況は改まらず、不況は寧ろ高まるという状態であった。しかし、昭和三十七年下半年に入ると、漸く国際収支の改善が見えはじめ、再度にわたる公定歩合の引き下げもあり、金融は緩和された。好況への歩みをみせながらも輸入自由化の進捗に伴う企業再編成など構造的課題が生じて、景気回復を遅らせ、商業界にも多くの複雑な問題を生じていた。昭和三十八年に入ると前年からの金融緩和政策が浸透して機械受注が増加、生産指数も好転して景気回復の兆を生じた。しかし五月以降国際収支不安が生じたし、ケネディ大統領の教書問題などで、経済界は予断を許されない不安な状況となつて、後期に入った。昭和三十八年後半から昭和三十九年初頭にかけて、生産指数の上昇、設備投資の上向きなど景気回復の兆はあったが、一方国際収支の悪化に対する予防的資金規制、開放経済体制移行に伴う構造的不安等に影響されて、景気は低迷の域は脱すること

が出来なかった。昭和三十九年上半年は政府の金融引締政策、開放経済への移行対策が推進されたため、国際収支の見透しの明るさに拘わらずなお国内景気は低迷の気があり、商業界も、なお一步の活潑さを欠き、後半から昭和四十年初頭にかけては、かつてない企業倒産を生じた。そして昭和四十年前半では、政府は預金準備率および公定歩合の引下げなど金融面からの挺子入れ、産業界の生産調整などの試みによって市場の立ち直りに努力したにも拘わらず、不況による影響は次第に浸透した。

## 二 司社長の海外出張

右のような景気の低迷、社会全面での激しい変化に処して、当社の業務を遂行して行くためには、特に諸外国の事情をよく知ることが必要（この後においてもその必要は大であろう）であった。

昭和三十六年から昭和四十年の五年間の司社長の海外出張は次の通りである。

昭和三十七年四月十五日、羽田を出発、欧米各国の取引先訪問の途に上った。一カ月半の予定であったが、この年十月、訪英経済使節団の一員として渡英することになったため、アメリカの取引先を訪問したのみで五月二日帰国した。そして同年十月九日から十一月十二日、訪英経済使節団の一員として、日英両国間の親善ならびに経済関係の改善促進のため渡英した。今回は社の要務をも果すため、石田義起ジレット部業務課長代理を随行させた。訪英中司社長は二十二日、ロンドン商工会議所に於ける全体会議の席上「日英両国間における観光旅行の発展」と題する演説を行った。またこの旅行中に、オランダ、西ドイツ、スイスの取引先を訪問した。

次に東京文具工業連盟主催の「東南アジア海外見本市」の状況及びシンガポール、香港、沖繩等に於ける当社製品の海外市場における景況を視察するため昭和三十八年二月八日から十八日までの十日間、東南アジアを訪れた。これらの地域では、すでに日本で留学生生活を経験した人々が、自国開業事業の中心になって働いている場合も多く、従ってインキその他当社製品に対する需要も増加しつつあったし、更に販路拡大の望みもあったのである。この度は草間省二良取締役が同行した。

この時期の最後の海外出張は、昭和四十年五月十四日から六月十六日までの欧米訪問であった。司社長は欧米の主要取引先訪問のかたわら、東京文具工業連盟主催のロスアンゼルスとロンドンにおける見本市視察団長として英・米二国を訪問した。この度は、桜井喜代志洋書仕入部長を帯同した。